

活性化 STING のがん治療標的としての評価:ステップ1(各種がんパラフィン切片を用いた活性化 STING の検出)

## 1. 研究の対象

2022 年 3 月以降に大阪国際がんセンターにて検査・手術を受け、病理部にて検体の保管をされており、検体を研究に使用することに同意された患者さん

## 2. 研究目的・方法

この研究では STING (スティング) と呼ばれるタンパク質がどのようながんで働いているのかを調べます。病理検体から作製した切片を用いて、活発に働いている STING があるか無いかを検討します。STING が働いているがんは免疫細胞の攻撃を受けて治癒しやすくなる場合と、転移する能力が増すなど悪性化する場合とがあります。なぜこのような違いが生じるのか不明ですが、まずはどのようながんで STING が働いているかを知ろうというわけです。将来的には、STING が働いて免疫細胞の攻撃を受けやすくなる場合の仕組みを明らかにしてがん治療に役立てることや、STING ががんを悪性化させる場合には、STING が働かないようにする薬も開発されていますので、薬でそれを抑えること等を目指しています。

研究期間：実施許可後から 2025 年 3 月 31 日

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、性別、年齢、カルテ番号、病理検体番号 等

試料：手術で摘出した組織

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

大阪国際がんセンター研究所 腫瘍増殖制御学部 松岡 洋祐

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：大阪国際がんセンター研究所 腫瘍増殖制御学部 東山 繁樹

-----以上